

ハズバンダリートレーニングによる高齢のジャイアントパンダの健康管理について

○梅元良次, 吉田憲一
(神戸市立王子動物園)

神戸市立王子動物園では、高齢化したジャイアントパンダの健康管理のため、日常的にハズバンダリートレーニング（以下「トレーニング」）を実施している。対象個体は1995年9月16日生まれ（23歳）のメスである。2011年から開始したトレーニングメニューは、ターゲットトレーニング、触診、聴診、直腸温測定、定期的な採血と発情期の膣スミア採取等であった。2017年より、新たに以下のトレーニングメニューを開始した。まず、角膜炎や麦粒腫など、眼の疾患が頻発したため、点眼や眼周囲の消毒のためのトレーニングを開始した。点眼器具には、シリンジにプラスチック製の経口ゾンデを装着したものをを用いた。徐々に慣らせていき、最高で1日あたり10回以上の点眼ができるようになった。また前肢で作業者を攻撃することがないように両前肢でケージの棒を握らせたまま、消毒液を染み込ませた綿花で眼周囲を消毒することも可能となった。また、高齢のジャイアントパンダに多いとされる疾病等に対処するためのトレーニングを以下のとおり開始した。まず、臼歯の摩耗状況を調べるためのトレーニングとして、細長く切った強化子のリングを縦にして口の前に示すことで、より大きく、また長時間開口できるようトレーニングし、口腔内の詳細な視診が可能となった。その結果、犬歯には軽度の破折が見られるものの、臼歯の摩耗は重度でないことが分かった。次に、腹水症の早期発見のため、腹部超音波検査のトレーニングも開始した。個体を仰臥位にさせ、プローブを腹部に押し当てる、腹部にエコーゼリーを塗る等の段階を踏み、腹部の超音波検査ができるようになり、現在、腹水の貯留はないことが分かった。さらに、心疾患や高血圧症の予防策として、心臓の超音波検査、血圧測定のためのトレーニングを始めている。引き続き、トレーニングによる高齢個体の健康管理に努めていきたい。